

Lib. ニュース

VOL.1 1

「葛飾図書館友の会」が発足しました

去る6月7日に『葛飾図書館友の会』が発足いたしました。当日は50名近くの方々が集まり、友の会の会則や活動内容等について、発起人会の案について活発に議論を交わし、ほぼ原案のとおり決定いたしました。今後は自主的な団体としての一步を踏み出しますが、図書館と連携をとりながら活動を進めていきます。

会則の一部をご紹介します。

(名称) 第1条 この会は葛飾図書館友の会 という。

(目的) 第2条 この会は葛飾区立図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、区民のための人づくりまちづくりとしての図書館であり続けるように守り育て、生涯学習の場としてともに学ぶことを目的とする。

(活動) 第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 図書館への協力
- (2) 講演会・学習会・見学会など
- (3) 会報の発行等の広報活動
- (4) 他の図書館友の会等の交流・連携
- (5) その他、この会の目的達成に必要な活動。ただし、政治活動・宗教活動・営利活動は行わない

友の会には、総務委員会、事業委員会、広報委員会の3つの部門に分かれ、それぞれ活動をしていくことになります。具体的な活動内容は今後決めていくことになりますが、皆さんが気軽に参加できる会になることが目標です。ご興味のある方は是非ご参加ください。会員は一般会員と賛助会員があり、それぞれ年会費が必要です。

友の会について、詳しくお知りになりたい方は、葛飾図書館までお問い合わせください。



たくさんの方が参加しました



委員会でどんなことをしたいか話し合いました

一足先に

ヴィナシス金町の建物を ご紹介します！

金町駅に降り立つと建設中のビルがひととき目立つようになりました。
現在、再開発ビル工事は高層住宅棟の23階を工事中です。

「ヴィナシス金町・タワーレジデンス」の
マンションパビリオン（現地販売所）に
建築模型があるのをご存知ですか？

模型は30分の1と200分の1の二つあり、
マンション購入予定者に一足先に完成予定の姿を
お披露目しています。



遠くからでもわかる工事現場



建物全体像：200分の1模型



30分の1模型は大きすぎてカメラに納まり
ません（高さ約4m60cm）

細部も精巧に作られており、私たちも平面図を見ながら「ここが図書館入り口」「ここがデッキ」「あそこが事務室」と模型を指さししながら施設の確認をしました。



公共駐車場の入り口（東側）



金町駅側から図書館入り口を見る

平面図で見ているだけではなかなか全体像がつかめなかったのですが、模型をみて改めて、41階の高さが実感できました。

新中央図書館への移転準備が始まっています

新中央図書館への引越は来年の夏の予定ですが、移転に向けて徐々に準備が始まっています。

新しい図書館の名前は『葛飾区立中央図書館』となる予定です。移転の際には現葛飾図書館から約10万冊の資料を移管いたしますが、資料に貼られている名称（館名シール）を貼り替える作業が進行中です。

エンジ色の『葛飾区立葛飾図書館』から紺色の『葛飾区立中央図書館』にシールが変わります。しばらくの間シールが混在しますが、ご了承ください。

また、新しいシステムの運用に向けて、各館の資料にICタグを貼付する作業も実施する予定です。

これを読めば

あなたも図書館通！（図書の分類編）

今回は、図書の分類についてお話しします。

みなさんは、書店に行かれると、「ビジネス」「パソコン」「日本の小説」「文庫本」などと本が分けて並べてあるのにお気づきですね。

図書館では書店よりもう少し細かく分類（図書館では分類という言葉をつかいます）して並べています。分類にはいろいろな方法がありますが、葛飾図書館では多くの公共図書館と同様に「日本十進分類法」（日本図書館協会）いわゆる NDC を用いて分類しています。

日本十進分類法とは、図書、資料を、その主題や形式の類似性に基づいてグループ化し、これを体系的に配列して、図書利用の能率を上げようとする書架分類法のひとつです。まず、10の区分に資料进行分类（第1次区分表）〔図1〕し、第1次区分表を10に区分（第2次区分表）〔図2〕します。さらに、第2次区分表を10に区分（第3次区分表）〔図3〕しています。

NDC の中の分類表を下記のように展開します。

図 1

0	総記
1	哲学
2	歴史
3	社会科学
4	自然科学
5	技術
6	産業
7	芸術
8	言語
9	文学

図 2

20	歴史
21	日本史
22	アジア史・東洋史
23	ヨーロッパ史・西洋史
24	アフリカ史
25	北アメリカ史
26	南アメリカ史
27	オセアニア史
28	伝記
29	地理・地誌・紀行

図 3

220	アジア史
221	朝鮮
222	中国
223	東南アジア
224	インドネシア
225	インド
226	西南アジア・中東
227	西南アジア・中東
228	アラブ諸国
229	アジア・ロシア

たとえば「インドの歴史」の本は歴史〔2〕の中のアジアの歴史〔22〕の分類に入ります。その中でインドの歴史〔225〕というように細分化されていきます。インド史をさらに細かく分けていくこともできます。図書館の蔵書の規模が大きくなると、分類も細分化されて5桁くらいまで、表示しているところもあります。

葛飾区立図書館では、分類番号を資料のラベルに付けています。大まかな分類が頭に入っていると、図書館で本を探すのが簡単になりますね。

NDC についてもっと詳しく知りたい方は、図書館に資料がありますのでご覧ください。